いまもあしたも誇れる座間であるために…

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911（ﾌｧｯｸｽも同じ）

おぎはら健司の市政リポート

統一地方選挙について

今回のリポートは、政策的なことではなく政局的なことについて、先に行われた統一地方選挙の分析等についてお伝えします。選挙結果を分析するということで、評論する内容になっておりますので、ご興味のない方には失礼とは存じますが、ご容赦下さい。

さて、3月26日の県知事選挙告示を皮切りに、4月3日からは県議会議員選挙が告示され、12日に投開票が行われました。座間市では、保守系現職ＶＳ自民党新人ＶＳ革新系新人という構図の中、選挙戦が繰り広げられました。

結果は、ご存知とは思いますが、自民党公認で立候補した新人が初当選を果たしました。

甘利明代議士に秘書として仕えた私も、自民党の候補を応援しておりましたので、ホッと一安心しております。しかし、今回の選挙で感じた点がいくつかあります。

まずは投票率の異常なまでの低さです。今回の県議選の投票率は過去最低となる36.88％でした。これは、市民（有権者）の約3人に1人が棄権しているという危機的状況であると感じております。

投票率の低さに関してよく言われているのが、「政治不信」や「政治への無関心」です。

たしかに、昨今の政治家の不祥事などは、地方議員の1人である私としても残念でなりませんが、投票を棄権するという行動では何も変わらないのも事実ではないでしょうか。

与えられた権利（選挙権）ですから、しっかりと行使（投票）する事を切に願います。

今回の低投票率は、保守分裂という状況に対する無言の意思表示と考えております。国政に目を転じれば自民一強という状況にあるなか、地方議会に対しても自民党がやや強引な手法に対する、NOという意思を感じた次第です。

次に、3名の候補者のそれぞれの得票数です。

当選した芥川さんは、最高得票ですので当選者となりましたが、芥川さん以外に票を投じた方の数は、芥川さんの得票よりも多くなっています。言い換えれば、選挙には勝ったが勝負には負けた、とも言えるのではないでしょうか。

あるいは、投票を棄権した6割を超える有権者が違う判断を下していたら、結果は大きく変わってしまった可能性も大いにあります。

『選挙』と『勝負』

一方、保守ＶＳ革新という構図で行われたこれまでの座間市の選挙では、保守５～6割、革新4～５割という勢力分布でしたが、今回の選挙で保守系無所属の現職の得票と自民党新人の得票を合わせると、保守系候補の得票が8割弱という事になります。平成17年に実施された衆議院総選挙、いわゆる郵政選挙でさえ全国で得票数第三位であった甘利代議士の得票率は座間市では6割を少し欠けていましたから、今回の選挙結果は、座間市の保守が大幅増したのかと言えるかも知れませんが、果たしてどうだったのかと冷静に検証をしなくてはなりません。

今回の結果は、保守の意識の高い3万人弱と革新系候補者に期待した9千人弱の有権者だけが投票に行き、無党派層と呼ばれる方々は選挙へ参加しなかったとも考えられます。

この無党派層の選挙（政治）離れを深刻に受け止め、政治への参画をどのように進めていくのか、考え直さなくてはならない時期にきており、啓発活動が急がれると思います。

私が初当選した平成24年9月の市議会議員選挙についても、初めて40％を下回りましたので、この傾向はさらに続くと考えられますが、無関心で居られても無関係では居られないのが政治です。

政治に携わる者の1人として、有権者の信頼を得て、関心をお寄せいただけるよう、説明責任を果たしつつ、微力を尽くしたいと思います。

市政リポートとしてお伝えする内容ではありませんでしたが、最後までご拝読頂き、ありがとうございました。